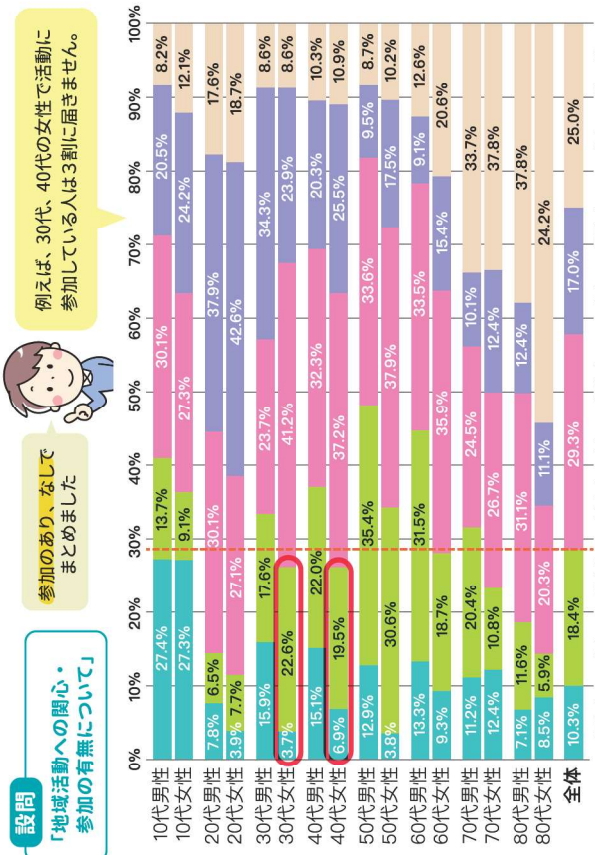


アンケートの結果を読み解くには？

アンケートの回答は全体を単純集計するだけでなく、世代別や性別でも集計します。世代間のギャップが浮き彫りになるなど結果から読み解けることが増え、課題が深掘りしやすく、手の打ちどころを見つけやすくなります。

(例) 小合こ三協の住民アンケートより抜粋 (令和元年度)



「勉強会」→「活動の洗い出し」→「ニーズの把握」 その都度必ず「意見交換」を行い、見直し案をつくる

こ三協や地域の現状を把握する作業では、必ず事業に携わる人たち同士の意見交換も取り入れましょう。意見交換により明らかになった数値の捉え方や手の打ちどころ、解決のアイデアなどを多様な視点で集めることで、より良い見直し案を作成できます。また、現状把握の結果を地域内にお知らせすることも大切です。地域の課題やこ三協の意義、活動の認知を広げることにつながります。

こ三協活動の認知度の低さを徹底的に分析

坂中まち協のケース
坂中まち協が行なった住民アンケートでは、まち協の活動の認知度は全体の半数が「名前だけ知っている」でした。内容はあまり知られておらず、特に20代は「知らない」が半数以上です。

あいざつ運動や花植えなど、目にしやすい活動は認知度が高いです。40～50代女性は認知度や関心も高く、子どもに関わることが要因と考えられます。女性の力やネットワークを生かす活動、情報発信の見直しを進めようとしています。

「坂井輪地区は住み良い」今はあまり困っていないと考える住民が多いと捉えられましたが、「住み良さを維持するため、将来の姿を想定しながら今から準備が必要があることを共有しました。」

《アンケート報告会後の意見交換より（一部抜粋）》

- 坂中まち協の活動をもっと知ってもらえないと、今後の担い手がなくなる。
- 防災意識は高い。合同訓練は参加者1000人に達する。

- 今後10～20年に影響するから40代の若い世代の考えは大事
- 子ども時代から地域ぐるみのつながり作りが必要。

- 認知度を高める取り組みやPRが必要。
- 坂井輪ジュニアレスキュー育成は底辺の拡大になる。

- 40代50代、子育て世代への働きかけ。人口減少の防止につながる！
- 親子で参加できるスポーツなどの事業拡大をしてはどうか。

アンケート結果から取り組み課題が明らかになる

小合こ三協では、アンケート結果を受け、重点的に取り組む事業（地域課題の解決につながる）は「実施する」、実施を検討するものは「実行委員で検討する」など、ランク付けしました。優先項目から着手しています。

活動の洗い出しでは、こ三協協会の業務がかなり多いことも分かり、こ三協主体でやらずに、地域内の意欲ある人が中心になって行う実行委員会形式も取り入れるようにしました。

SNSの勉強会を開催

小合こ三協ではアンケート結果で住民のインターネットやSNS利用率が高い数値を示したことから、市の補助金を活用し、LINEとFacebookの勉強会を開催しました。今では操作もだいぶ慣れて、役員同士の連絡はLINEでやり取りしています。県内でも、アンケート結果報告会後に参加者がSNSの活用を進めようと提案し、自分が講師になって勉強会を行ったコミュニティ組織があります。



小合こ三協のLINE勉強会の様子